

平成30年第1回相馬市総合教育会議議事録

1 開催日時

平成30年10月3日（水）

開会 午後4時00分

閉会 午後5時20分

2 開催場所

相馬市役所 3階 庁議室

3 出席した構成員

相馬市長

教育長

職務代理者

教育委員

教育委員

立谷秀清

堀川利夫

宗形明子

森陽子

関根進

4 欠席した構成員

教育委員

菅野明彦

5 事務局関係

（相馬市）

企画政策部長

企画政策課長

企画政策課長補佐

宇佐見清

渡邊学

荒川誠

（相馬市教育委員会）

教育部長

生涯学習部長

学校教育課長

生涯学習課長

学校教育課主幹

阿部和夫

佐藤栄喜

渡邊義人

高橋利宗

松本一宏

6 傍聴人

なし

7 協議事項

（1）重点的に講ずべき施策について

①学力向上対策について

②食育の充実について

③相馬市子ども科学フェスティバルについて

④心のケア事業について

⑤生徒指導上の課題について

⑥児童相談所について

⑦スポーツアリーナそうま第二体育館の建設について

（2）その他

8 議事の経過

1 開 会（企画政策課長）

2 市長あいさつ

3 協 議

（1）重点的に講ずべき施策について

①学力向上対策について

○協議結果 事業に対しどのような効果があるのか検証と改善をしながら実施する。

○協議内容

渡邊義人学校教育課長 （別紙資料により説明）

（ 委員から特に意見なし ）

②食育の充実について

○協議結果 市内の子どもの食生活の実態とデータが乖離している。市教委と学校は実態を正確に把握することに努めるべき。

○協議内容

渡邊義人学校教育課長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 資料裏面の食育の目標に「食べる力」とあるが、これは豊かな時代だから。食育の基本は、きちんと決まった時間に朝・昼・晩、3度食べるということ。食物に感謝の気持ちを込めていただく。

資料には、市内の朝食の摂取率が小学校で 99.6%、中学校で 97.5%とあるが、こんなに高いはずがなく、これはデータとして不備である。母子家庭などで、親がしっかりと朝食を子どもに与えず登校させて、給食に栄養を頼っていることが社会問題になっている。どうやってこのデータになったかわからないが、これは再検討してください。あり得ないです。

菅野明彦委員 このデータは、何をではなく、食べたか食べないかの数値だと思う。

立谷秀清市長 どういった主旨でアンケートを取るか考えなくてはならない。ここには朝食摂取率と書いてあるので、食べれば何でもいいわけではない。きちんとテーブルに向き合って適切な食事をとっているかどうか。これは生きた数字ではない。肥満傾向は福島県、全国と比較して、朝食摂取率は福島県としか比較していない。県と比較するものではないし、先生方がなぜこれらを調査しているのかしっかりとその意味を理解しなければならない。食育は本当に大事なことであり、一人ひとりどのような食生活をしてるか調査して、親を呼んで説教するくらいでないといけない。PTAの協力も必要になる。

森陽子委員 子どもたちに残食の罪悪感を持ってもらいたいと思う。

菅野明彦委員 食育に関しては、いろいろ問題はあるが、市教委としては、この資料にあるところに絞ってやろうと話し合っていたところ。もちろん3度食べること、適切な食事は大切ですが、学校でできることにも限界があり、食品ロスという食べ物の大切さという形にした。

宗形明子職務代理者 市長の話によると、朝食をとっていない子どもは、実際には10%以上いて栄養の摂取を学校給食に頼っているということですが、夏休みなどの長期休業中はどのようにしているのか。

立谷秀清市長 経済的な理由で子どもに朝食を与えられないという家庭もあると

考えている。だから今、子ども食堂が話題になっている。本気で対策しようと思ったら、翌日の朝食のパンを学校で下校前に渡すくらいのことが必要になるかもしれない。

この問題は教育委員会でもっと頑張ってもらいたい。次回の会議でどこまで答えが出せるか。

③相馬市子ども科学フェスティバルについて

○協議結果 この内容で進めるが、開催日は再度検討する。

○協議内容

松本一宏学校教育課主幹 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 新しいことにチャレンジするのはとてもいいこと。

関根進委員 開催日は8月21日で決まりですか。

堀川利夫教育長 平日なので、親が来るということも考え、もう一度検討する。

④心のケア事業について

○協議結果 相馬フォロワーチームのカウンセリングとメンタルヘルスサポートのいずれも被災4校だけでなく、他校にも拡大する。

○協議内容

松本一宏学校教育課主幹 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 PTSDについては、ほとんどないですが、まれにフラッシュバックするということはある。もう一つは、震災によって家庭状況、経済状況が悪くなり、子どもの環境が劣悪になり起こっていることもあるが、すべてが震災の影響かどうかはわからない。資料の相談実績350件のうち、被災4校の件数は？

松本一宏学校教育課主幹 すべて被災4校の実績。

立谷秀清市長 繰り返し相談している人の実人数は？

松本一宏学校教育課主幹 正確に把握していない。

立谷秀清市長 被災4校のカウンセリングから、そろそろ他校に広げてもいい頃と考えている。復興創生期間終了後もこの事業は続けていきたいと考えている。日本香堂からの寄付を貯めておいているので、これを少しずつ使って、被災4校だけでなく、全体的に使い、10年位は続けていきたい。

菅野明彦委員 相馬フォロワーチームのカウンセリングから堀先生のメンタルヘルスにまわった事例はありますか。

松本一宏学校教育課主幹 児童生徒についてはあります。

⑤生徒指導上の課題について

○協議結果 市教育委員会で指針を出す

○協議内容

渡邊義人学校教育課長 （別紙資料により説明）

堀川利夫教育長 仙台市で東北大学の協力を得て、過去5年間のスマホ所持率や利用状況を調べた。その結果、1日1時間以内では影響が認められないが、2時間以上になると、その日学校で学習したことが頭からすっかりなくなるという結果が出ている。スマホを禁止することは今の世の中無理だが、夜10時以降は使用しな

いということのを投げ掛けようとしている。

立谷秀清市長 親が取り上げて時間制限するしかない。ペナルティを与えることも必要となる。よそも同じような悩みを抱えていると思うので、全国の事例を調べて良いところを参考にすることにしましょう。

堀川利夫教育長 事例を調べている。西日本が多いが、県や市で条例を定めているところもある。相馬市は条例制定まで必要ないと考えているので、市教委で何か1つ2つ出したいと考えている。

⑥児童相談所について

○協議結果 相馬地方市町村会で粘り強く要望していく

○協議内容

堀川利夫教育長 昨年、児童相談所の方と話したが、独立したものはつくれないとのこと。人も増やせないということ。

立谷秀清市長 これは市町村会でも皮肉たっぷりにやっている。現に南相馬市の市議会議員が「困っている人が大勢いる」というから相馬地方市町村会長として動いているのに、児童相談所の人が私のところにきて、なぜ人が増やせないのか自分たちの都合だけ話していった。「あなたたちの話を聞いてもしようがない」と言ったら、それ以来何も言ってこなくなった。これは政治的なマターなので、市町村会として粘り強くやっていく。

⑦スポーツアリーナそうま第二体育館の建設について

○協議結果 平成32年4月にオープンできるよう努力する

○協議内容

高橋利宗生涯学習課長 (別紙資料により説明)

立谷秀清市長 これは相馬市民みんなに考えてほしいことだが、第二体育館が完成すると、アリーナだけがデザイン的に浮くことになるので、ちょっと化粧して黒張りを入れようと、塗装を入れようと思っている。市民会館、千客万来館などもあるので、できるだけ雰囲気を合わせたい。中村一小ができた時も体育館をちょっと塗ったら違和感なくなった。

(委員から特に意見なし)

立谷秀清市長 大事なことは、平成32年4月にオープンできるよう頑張ること。3月上旬には工事が終わって、4月の新学期から使えること。

(2) その他

(委員・事務局から特に意見なし)

4 閉 会